

<様式>

学 校 名	山形市立西小学校 山形市西田三丁目 2—1 TEL645 - 0390 FAX645 - 8594	校 長	武田 喜好
		研究主任	伊藤 林大郎
研 究 主 題	自ら考え、ともに学び合う子どもの育成（5年次） ～つながりを大切にした教育活動を通して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本主題は、「未来への夢を持って、豊かに学び、しなやかでたくましい子どもの育成」の学校教育目標を受け、主体的に学び、互いに相手を尊重しながら関わり合う中で、自分の考えを広げたり深めたりし、学び続けていこうとする児童を育成することを目指している。</p> <p>昨年度は、目指す子どもの姿を受け、習得を目指す具体的な資質・能力を、学年ごとに設定し、全ての教育活動で、計画的・意図的に習得を目指してきた。生活科・総合的な学習の時間を中核にしたカリキュラムデザインを作成し、目指す資質・能力を習得し、繰り返し発揮され、高めていけるように校内研究を進めてきた。</p> <p>昨年度までの研究を通して、本校の児童の姿を見つめ直すと、「自分の考えや思いをもって学ぶことができる」「学びを次につなげたり、広げたりすることができる」などの力が付いてきており、一定の成果が得られた。一方で、「考えたり、比較したり、つなげたりしながら聴く力をさらに高めたい」「根拠を基に説明する力を高めたい」「見通しをもち、自分たちで活動を計画・実践していく力がさらに必要である」など、本校の児童の課題や付けたい力も見えてきた。</p> <p>本校の児童に付けたい力は、授業改善の工夫だけで身に付くものではなく、日常生活や行事、委員会活動など、教育活動全体で常に意識して習得を目指すものである。教師が児童に付けたい資質・能力を明らかにし、どの場面でどのような手立てをとって力を付けていくなか見通しをもち、単元構成や日常生活と授業、授業と特別活動など、つながりを意識しながら指導にあたっていく必要がある。</p> <p>そこで今年度は、①授業づくり②学級づくり③学校づくりにおいて、目指す資質・能力との「つながり」を大切にした教育活動を行っていく。</p> <p>① 授業づくりにおいては、生活科・総合的な学習の時間を中核とし、各教科等の学習との「つながり」を意識したカリキュラムデザインを構成するなどして単元づくりを行っていく。児童の学びや身に付けた力が、各教科で閉じることなく、生活科・総合的な学習の時間において発揮され、さらに高まっていくようにする。</p> <p>② 学級づくりにおいては、『学級を一からつくる取り組み』に力を入れ、児童同士、教師と児童との協働によってあたたかい人間関係や学級文化を創っていけるようにする。さらに、目指す資質・能力と学級経営の方針とのつながりを意識し、学校生活全般で、児童に力を付けていく。</p> <p>③ 学校づくりにおいては、学校行事等でも、「目指す子どもの姿」を意識した取り組みで力を付けていけるように、各指導部と連携して、校内研究に取り組んでいく。</p> <p>「授業づくり」「学級づくり」「学校づくり」の3本の柱で、研究主題に迫っていく。</p>		

研究の目標	<p>【めざす子どもの学びの姿】</p> <p>① 「自分の考えをもち、学び続ける子ども」(主体的な学びの姿) ⇒興味や関心をもって課題を捉え、考えや思いをもって前向きに学ぶ姿、「こうなりたい。」という願いをもち、見通しをもって粘り強く取り組む姿、学習活動を振り返って自分の成長や変容に気づき、学びを次につなげたり、広げたりしようとする姿。</p> <p>② 「かかわりながら、ともに学びあう子ども」(協働的な学びの姿) ⇒友達と対等にかかわり、自分の考えを広げたり、深めたりする姿、教職員や地域の人との対話を通して、自分の考えを広げたり、深めたりする姿。</p>
研究の内容	<div> <div>つながりを大切にした教育活動</div> <div> <div>①授業づくり</div> <div>《授業改善の工夫》</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部1授業研 ・カリキュラムマネジメント表の作成・活用 ・研究の日常化 </div> <div> <div>②学級づくり</div> <div>《学級を一からつくる取り組み》</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標づくり ・担任と子どもの信頼ベースの関係づくり ・子どもと子どもの共感的な関係づくり </div> <div> <div>③学校づくり</div> <div>《教育活動全体で取り組む》</div> <p>「めざす子どもの姿」と学校行事等を関連させる。</p> <p>各指導部と連携して、教育活動全体で「めざす子どもの姿」に迫れるようにする。</p> </div> </div> <div> <div> <div>つながりを大切にした 単元づくりの工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> ・単元間のつながり ・他教科とのつながり ・暮らしとのつながり ・体験と言語のつながり ・人とのつながり </div> <div> <div>つながりを大切にした 学級づくりの工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と子どものつながり ・子ども同士のつながり </div> <div> <div>つながりを大切にした 教育活動の工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事のねらいとめざす子どもの姿とのつながり ・各指導部の活動のねらいとめざす子どもの姿とのつながり ・これまで継承されてきた学校文化とのつながり ・これから継承されていく新たな学校文化とのつながり </div> </div> <div> <div>習得を目指す資質・能力との「つながり」を大切にする</div> <div>これらのつながりを「見える化」するために、カリキュラムマネジメント表を作成・活用</div> </div>
	<p>【カリキュラム・マネジメント表の作成・活用について】</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、学年ごとに視覚的な表(以下カリキュラムマネジメント表)を作成することで、児童に身に付けたい力が、どの場面でどのように習得・発揮されていくのか「見える化」する。</p> <p>「①自分の考えをもち、学び続ける子ども」「②関わりながら、ともに学びあう子ども」という目指す学びの姿を受けて、各学年で習得を目指す資質・能力を3～4つ設定し、全ての教育活動の中で、身に付けられるようにする。</p> <p>カリキュラムマネジメント表は、PDCA サイクルを繰り返し、編集・改善をして作り替えていく。大判印刷したものをみんなで見合えるように掲示することで、指導の重点の見える化と情報の共有化を図り、研究の日常化に努める。</p>

研究の方法

◆授業研究を通して研究主題の実現に迫る

- ・授業研究会は各学年部で1回の実施する。本時のみの研究・授業づくりとならないように、カリキュラムマネジメントや目指す資質・能力とのつながりを明確にした単元・授業づくりに学年で取り組む。授業者以外の職員も指導案づくりに関わるほか、先行授業を行ったり、同単元の別の授業を行ったりするなどして、単元・授業づくりに積極的にに関わり、学年ごとに研究を深められるようにする。
- ・事後研究会はワークショップ型で行い、児童の姿を基に話し合いを行う。
- ・「事後研だより」を発行し、全職員に配布する。事後研究会の協議内容を共有化し、各自の授業実践に生かしていく。
- ・外部講師による校内研修会を計画し、研究の充実を図る。

◆「学級を一からつくる取り組み」で学級経営に力を入れる

研究主題に迫るためには教師と児童・児童同士の関係づくり、児童にとって安心できる居場所づくりが必須である。そこで「学級を一からつくる取り組み」を実施し、「教室」という安心して学習に臨むことができるコミュニティを確立することによって、校内研究を進めていく上での土壌を築いていく。

そのために、今年度も、学級経営に係る実践交流会や校内研修会、おしゃべりタイム（教師と児童一対一で話す機会）等を計画し、丁寧な児童理解を心がけ、児童の個性や長所を伸ばさせたり、成長に導いたりしながら、温かい学級・学年づくりに努めていく。

◆各指導部と連携しながら、教育活動全体でめざす子どもの姿に迫る

- ・全ての教育活動を資質・能力を育む場と考え、校内研究を意識しながら取り組んでいく。全職員は見通しをもって支援にあたり、最後まで見届ける。
- ・学校行事では、めざす子どもの姿に迫れるような「ねらい」や「内容」となっているか、研究推進委員と各指導部で連携して、検討していく。
- ・カリキュラム・マネジメントの研修会を開き、全ての教育活動と資質・能力とのつながりが「見える化」されたカリキュラム・マネジメント表づくりに努め、成果を指導に生かしていく。

研究の計画

項 目	実施時期	担当・参加者	備 考
全体授業研究会 (大研)	6月下旬・10月～12月 (2年伊藤・3年石田・5年日塔) ※指導主事派遣申請後日程が決定	学年部1授業 特支除く	事前研 : 学年 授業参観・事後研: 全職員
学年部授業研究会 (中研)	1回目大研以降	学年部1授業	事前研 : 学年 授業参観・事後研: 学年部 授業者は、大研の授業者の学年以外
研究推進委員会	4月 主題・計画の提案 5月 指導案形式の検討 1月 研究紀要の提案 2月 研究紀要の作成	研究推進委員	主な役割 授業研究会の運営・記録 事前研・事後研の運営・準備 校内研修会の計画・運営・準備 研究紀要の提案・取りまとめ 研究紀要の発送
研究全体会	4月 今年度の研究方針 授業者研究会の日程調整 5月 カリキュラム・マネジメント表の検討 6月 カリキュラム・マネジメント表の作成 7月 前期の反省 12月 年間反省・実践の整理 2月 成果と課題の集約 研究紀要の作成 来年度の方向性の検討	全職員	推進委員会で提案・運営を行う 《研究紀要》※各自ファイルに作成 ①指導案 ②事後研だより ③カリキュラム・マネジメント表 ④学級を一からつくる取組の実践
校内研修会	1回目: 6月7日(水) 2回目: 11月ごろ 3回目: 1月ごろ	全職員	講師: 検討中 内容: カリキュラム・マネジメントについて